



令和7年度 富山市立水橋西部小学校

天瀬っ子

学校だより10月号



読書は「自分の時間」をもつこと

図書指導担当 水橋 透

読書は子供が他者から強制されない学びの時間です。自分で本を選び想像を広げる、言わば「自分の時間」です。「自分の時間」は、自己肯定感や主体的な学習態度の形成につながり、長期的には生涯学習の基礎を築きます。

学校では集団行動が主ですが、図書室は子供たちにとって、自分のペースで考え、感じることができる数少ない場です。図書室は、静かに本を選び読書する場であることから、他人とのコミュニケーションは最小限になります。自己との対話が主になりますから、周りの子がどうしているかを気にする必要はありません。友達との関係をうまく築けないときでも、グループから離れ、「自分の時間」を過ごすことができるので、「居場所」やクールダウンの場にもなり得ます。最大限活用してほしいと思います。

ここで、「自分の時間」を深掘りするために、テレビ視聴やオンラインゲームと読書を比べてみましょう。テレビ視聴やゲームも「余暇」として読書と同列に並べられることがあります。しかし、テレビ視聴は、流れてくるコンテンツを受け取るだけなので、時間の流れを相手に預ける形になります。自分で時間をコントロールできません。ゲームにしても、操作する能動性がありますが、基本的にルールやシナリオの制約の中で外部からの刺激に反応することを競う時間です。あっという間に時間が経つのは、ゲームに「自分の時間」を預けているからです。

それに比べて読書は、読み進める速度や解釈はすべて自分に委ねられており、ページをめくるスピードやどこまで読み進めてやめるかも、自分で決められます。「自分の時間」というのは、自分が主体的に過ごす時間ですから、テレビ視聴やゲームとは一線を画します。

最後に、主に私たち大人の「自分の時間」について考察するため、読書とSNS視聴を比較します。SNSは新しいニュースを早く知ることができますが、取材元がはっきりしない場合もあり、ファクトチェックが必要であること、アルゴリズムにより次々と情報が流れ込むため、自分でコントロールするのが難しいこと等が利用者の課題ではないかと思います。SNSのアルゴリズムとは、ユーザーの行動データを分析し、関心がありそうなコンテンツを優先的に表示する仕組みで、無意識のうちに「あふれ出す情報の波に飲み込まれる時間」になりかねません。

それに比べて書籍は、出版までに多くの目でチェックされているので、信頼性が高いです。書籍にじっくり向き合うことは、自分とは異なる他者の視点に触れることであり、自分を問い直す体験になり、人格形成や価値観の形成に直結します。つまり、読書は自分の内面と対話する時間であり、文字通り「自分の時間」であると言えます。

私たち大人自身が、SNSを補助的に利用しつつ、図書館を利用するなど、落ち着いて「自分の時間」をもつことで、子供たちにもその豊かさに気付かせたいものですね。